

## 令和7年度 第1回神奈川県立鎌倉高等学校 学校運営協議会 議事録

日時：令和7年7月17日（木）15：30～16：45

場所：鎌倉高等学校 国際理解ホール

### 出席者（敬称略）

（委 員）田邊 克彦、加藤 俊志、牛見 誠人、菅野 喜八、高木 亮、佐藤 弘一、  
斎藤 貴、岡田 雅彦

（事務局）佐藤 文美、石塚 隆夫、林 孝弘、石川比呂子、柴田 克也、良田 直優、  
佐藤 靖彦、伊藤 剛

（欠席者）永山 悅子

### 議事録

#### 【1. 校長挨拶】

暑い中、また御多用のところお越しいただきお礼申し上げる。学校運営協議会委員の皆様には、鎌倉高校の運営についてご意見をいただければと思う。行事等の連絡も差し上げるので、ぜひお越しいただきたい。

令和6年度には、会議室の空調、長期休業中の服務等について、学校運営協議会として県教育委員会に対して意見を述べた。進捗を後日報告する。

#### 【2. 学校運営協議会の開催にあたって】

##### （1）委員の委嘱について

- ・以前は2年間任期だったが、現在は1年間任期である。昨年度に引き続きの方を含め委嘱するもの。
- ・校長より委嘱した。

##### （2）学校運営協議会委員及び事務局員紹介

○田邊委員：昨年に引き続き今年度も委員を務めることになる。

○加藤委員：横浜国立大学の加藤と言う。横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校・鎌倉中学  
校の校長もしている。

○斎藤委員：神奈川工科大学前副学長。

○高木委員：同窓会副会長。生徒として3年間、教員として14年間鎌倉高校に携わってい  
た。恩返しをしたいと思う。

○牛見委員：腰越中学校校長。近隣の学校として日々鎌倉高等学校の生徒の活動に関心をも  
っている。

○菅野委員：七里ガ浜二丁目自治会住環境委員。生徒の安心安全について一緒に考えていき  
たい。

○佐藤委員：PTA会長。昨年に引き続きになる。保護者の立場として関わっていきたい。

(3)学校運営協議会について

- ・『神奈川県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則』および『神奈川県立学校に設置する学校運営協議会の運営等に関する要綱』に沿って本校の学校運営協議会は設置されている。第一回協議会もこの規則に沿って進めさせていただく。

(4)会長及び副会長の選出

- ・牛見委員から田邊委員を会長に推薦。拍手をもって承認された。
- ・田邊会長が副会長に加藤委員を推薦。拍手をもって承認された。

【3. 協議】

(1) 学校運営協議会の組織について

○岡田委員：『神奈川県立学校における学校運営協議会の運営等に関する要綱』の第10条について、学校評価部会を設置し、7名の委員の皆様に学校評価部会の委員をお願いしたい。

○田邊会長：一同異論なし。学校運営協議会委員7名全員が学校評価部会の委員として承認することとする。

○岡田委員：学校設置部会には、昨年度よりキャリア部会も設置している。学力進学重点エンターとして、理数教育推進校として、SSHとして、包括的に進路に資する部分を評価するため、今年度も継続設置したい。

(一同拍手により承認)

○岡田委員：キャリア部会委員として田邊委員、加藤委員、牛見委員、佐藤委員、学校担当者として佐藤副校長、林教頭、伊藤総括教諭、石川総括教諭、柴田総括教諭、佐藤総括教諭、永山総括教諭、良田総括教諭をお願いしたい。

○田邊会長：キャリア部会の委員として12名を指名する。

学校運営について

ア 学校教育計画に関するこ

○岡田委員：学校要覧に令和6年度から令和9年度の学校教育計画を記載した。グランドデザインについては、学力向上進学重点校エンター校・理数教育推進校が2本柱となる。その土台としてこれまで取り組んできたグローバル教育がある。これらを学校のミッションに反映させている。SSHの研究開発目標について、本校の研究課題は“総合知”を活用する人材の開発である。また、文理融合基礎枠という枠組みでの指定であるため、理数に関わらず文理融合的な視点から取り組んでいきたい。

○田邊会長：学校教育目標などについてご意見ご質問はあるか。

特になし。

イ 教育課程の編成に関すること

○教務 G：1年生のカリキュラムについて、SSH 指定を受けて文理融合的な学びを実現で  
きるように、教育課程新たに編成した。

ウ 学校組織の編成に関すること

○岡田委員：学校要覧より、学校は学年、グループ、教科の3本柱があるが、学校要覧では、  
グループを重視したまとめ方をしている。教務 G は、ICT についてや、生徒  
による授業評価について取りまとめている。学習企画 G は、特に SSH 事業に  
について総括している。キャリア支援 G は、進路指導について取りまとめを行  
っている。生徒会 G は、生徒の活動、特に部活動等に深く携わっている。生活  
指導 G は、規律だけでなく、特に教育相談関連にも取り組んでいる。管理  
G は、防災教育や PTA、同窓会、100周年業務を担っている。SSH について、  
学習企画 G を中心としつつ、進路実現にもつなげていきたい。

エ 学校予算の執行に関すること

○石塚事務長：就学支援金について、今年度から所得制限が撤廃され、臨時支援金による支  
援が加わった。

オ 学校施設及び設備等の管理及び整備に関すること

○石塚事務長：耐震工事は完了した。正門の工事や A 棟前のアスファルト舗装等の工事を  
12月に予定している。

○田邊会長：来年度に向けて、無償化の問題について、何らかの影響が出てくると懸念。学  
校の方に何か考えはあるか。

○岡田委員：公立学校と私学を比べたときに、設備面で私学に対して不利になるとよく言わ  
れるが、鎌倉高校はあまり影響がないのではと言われている。就学支援金の要  
件確認等により事務職員を1人配置しており、無償化によって1減となると  
業務に支障が出る。この点について事務職員を減らさないように声をあげて  
いきたい。

○田邊会長：来年度の募集についても頑張っていただきたい。

(3) 神奈川県立鎌倉高等学校の教育活動について

1 教育課程・学習指導

- 教務 G : SSH 指定を受けて教育課程を再編成。また、授業改善のため、現在第1回生徒による授業評価アンケートを実施中。それに伴って授業改善をしていく。
- 学習企画 G : おかげさまで SSH 指定を受けることができた。特に総合知を活用できる人材の育成を目指していきたい。
- 齋藤委員 : SSH に関することについて、教育活動の効果の検証、アンケート調査、教員側の評価など、成果の検証について重点化してもらいたい。
- 学習企画 G : SSH のミッションとして評価が必ず求められる。既に実施した事業についてもアンケートを実施している。年度末にそれらをお示ししたい。
- 齋藤委員 : ループリックやアンケートのすり合わせをしっかり行い、生徒と教員の達成したことと、達成したいことが同じになるようにしてほしい。

## 2 生徒指導・生徒支援について

- 生徒会 G : 行事や生徒会など、生徒の主体的な活動を支援していくよう邁進している。部活動についても、いずれの部活動も頑張っている。特にサッカー部が県ベスト16、剣道部も県ベスト16と、結果を残している。
- 生活支援 G : かながわこどもサポートドックを通じて早期の対応を心掛けている。

## 3 進路指導・支援

- キャリア支援 G : 学力向上進学重点校エントリー校として、今よりも少しでも高い進路を目指させ、第一志望宣言をさせている。例年多くの国公立大、難関大に合格している。今年度に関しては進学準備が減少しているが、これは全国的な傾向である。3年生は3月に難関国公立大学ガイダンスを実施。例年よりも難関大志望が多い。それらをサポートしたい。共通テスト出願について、WEB出願が始まるので、丁寧に指導したい。

## 4 地域との協働

- 管理 G : 近隣や藤沢分教室と連携しながら、防災訓練等で協働している。
- 佐藤委員 : PTAとの連携はどういう活動をイメージしてのものか。PTAが何かする必要があるのか。

- 管理 G : 生徒の日頃の活動の中で実は恩恵を受けていることが多い。生徒がPTAの活動を認識できるように、それがスムーズに行われるよう連絡調整を行い、見える化、工夫・改善をしていく。

## 5 学校管理・学校運営

- 佐藤副校長 : ICT活用、働き方改革によって生徒との時間を確保する。

○管理 G：防災計画について、分教室と連携し、DIG 訓練を通じて、実際に生徒が自分で考えられるように、災害を想定した行動が取れるように ICT を活用しながら、防災意識を高めている。

○加藤委員：働き方改革の具体と、その成果の検証方法を知りたい。

○佐藤副校長：Teams の活用が進んでいる。朝の打合せはもちろん、文化祭の運営等でもチャットや打合せ掲示板を活用した。また、職員会議資料の電子化を行っている。検証については、職員の実感が大事。目に見える形での変化をさせていただきたい。

○加藤委員：教育学部の指導をしているが、勤務時間外に業務を行わねばならず、教員を志さない学生が多い。1ヶ月の時間外勤務の計が80時間以上の人数が減ったかどうかなど、見える化したい。

○田邊会長：働き方改革について、教職員の実感としてはどうか？

○学習企画 G：実感としては変わらない。マンパワーが足りない。純粋に人を増やすことでしか対応できないと考えている。

○牛見委員：便利になって合理化されると、その隙間に仕事がはいってくる。また、SSH に指定され、これまで以上にやることが増えると推察するが、①業務の余白を捻り出する工夫はあるか。②総合知をもったリーダー育成のポイントは何か。

○学習企画 G：①について、工夫はないのが現状。強いて言えば予算がついて SSH 事務員を配置した。②について、総合知を活用できる人を育成という観点では文理で分けて、広い観点で見る力を育成していく必要がある。

○田邊会長：中学生に向けたアピール等はあるか。

○学習企画 G：まだ HP には載せられていないが、学校説明会等で周知していただきたい。

#### （100周年に向けて）

○高木委員：来たる 100 周年に向けて OB・OG として何をするか議論した。生徒の喜ぶもの、ためになることがあれば伝えてほしい。目標があれば動きやすいし、お金も集めやすい。PTA・同窓会・地域で盛り上げたい。

○菅野委員：生徒の安全について、ぜひご指導いただきたい。

#### （4）その他

##### 1 今後の日程について

第2回は12月を予定。

SSH も含めた公開研究授業を10月に予定。ぜひ視察をお願いしたい。